２１世紀の日本のかたち（１１５）

平成と令和の結び目

戸沼幸市
＜(一財)日本開発構想研究所 代表理事＞

１．新元号“令和”に決まる

新元号の制定に関して、2019（平成31）年４月１日午前９時半から、政府は総理大臣官邸で「元号に関する懇談会」を開き、原案に対し有識者９人に意見を求めました。その上で衆議院と参議院の議長、副議長からの意見聴取や全閣僚での協議を行い、更に臨時閣議を開き新元号が閣議決定されました。そして、11時半頃、菅義偉官房長官から次の元号は“令和”とすることが発表されました。

写真１　記者会見で“令和”を掲げる官房長官

資料：首相官邸ホームページ

令和の出典は、『万葉集』巻五「梅花歌卅二首并序」で、

「初春令月気淑風和梅披鏡前之粉蘭薫珮後之香」

「初春の令月にして、気淑(よく)く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披(ひら)き、蘭(らん)は珮後(はいご)の香を薫(かおら)す」

新元号の候補に挙げられた６案は、国書から、英弘(えいこう)、広至(こうし)、令和(れいわ)。漢籍から、久化(きゅうか)、万和(ばんな)、万保(ばんぽう)。この中から、国書による「令和」が選ばれたとのことでした。

関係者の間では「令和」を考案したのは国文学者で、万葉集研究第一人者の中西進氏（89）との見方で一致しております。中西氏による令和の解説では、「元号の根幹にあるのは国の文化目標であり、令和の「和」については「和をもって貴しとせよ」という聖徳太子が制定したと伝えられる十七条憲法の平和精神を重視、「令」は善いことを意味し、「麗しき和」が令和に表現されている。出典の国書、万葉集には「大和の心」が流れている。」（読売新聞４月17日朝刊より）

新元号「令和」に関して、国書、万葉集より先に、中国の古典「王羲之(おうぎし)」の「蘭亭序(らんていじょ)」、詩文集「文選(もんぜん)」の「張衡(ちょうこう)」からの影響ありとの指摘があり、古事記、日本書紀、万葉集からの出典とはいえ、中国古典に遡る可能性大との指摘もあります。

また万葉集に収録された大伴旅人の梅花の宴、太宰府は、唐や新羅の使節との交流の場でした。東南アジア、北東アジアにあって、日本列島の位置、地理、地形、春夏秋冬の美しい自然の中に創られた日本国は、様々な外来文化を受け入れた歴史があります。これに

ついては日本文化の多様性を論じた音楽家、三善晃さんの「奇跡的な逆説」が思い出されます。

「日本の文化は、制度的な整合のなかに、世界に類例のない多極性をはらんでいる。しかもその多極性は、全体像であると同時に、私達個々の中にもある。

和魂洋才と言うが、その前は和魂漢才でした。７世紀初頭の大宝律令による雅楽寮（朝廷の音楽を司る役所）をはじめ、日本は大陸の文化を制度として受容してきた。しかもそれらは互いに混交することなく保存継承され、今に至っている。」（No.113 に紹介）

20 世紀から 21 世紀を跨ぎ越えた“平成”は日本においてひとまず平和で戦争の無かった時代でした。

２．天皇の御退位、令和の時代へ

2019（平成 31）年４月 30 日、天皇が退位され、５月１日、皇太子徳仁親王が日本の新しい象徴天皇に即位され、雅子さまが皇后陛下になられました。

平成と令和の結び目として、新旧天皇（125 代と 126 代:神話を含む）の皇位引き継ぎが、今も宮中祭祀として神社様式の皇居宮殿で行われている映像を興味深く見ました。

写真２　皇居・宮中三殿

資料：宮内庁

皇位継承の証しとして、歴代天皇に伝わる三種の神器のうちの剣と璽（まがたま）、公務に使う印章の御璽、国の印である国璽が新天皇に引き継がれる「剣璽等承継の儀」が、皇居の森深き宮殿で行われておりました。皇室の神事として今も生きており、神話の世界が保全され再現されているのです。日本の古代のかたちが今も温存され、まさに最大級の世界遺産に思えます。

「日本国憲法及び皇室典範特例法の定めるところにより、ここに皇位を継承しました。皇位を継承するに当たり、上皇陛下のこれまでの歩みに深く思いを致し、また、歴代の天皇のなさりようを心にとどめ、自己の研鑽に励むとともに、常に国民を思い、国民に寄り添いながら、憲法にのっとり、日本国及び日本国民統合の象徴としての責務を果たすことを誓い、国民の幸せと国の一層の発展、そして世界の平和を切に希望いたします。」（「即位後朝見の儀」、天皇陛下のお言葉）

写真３　即位後朝見の儀に臨まれる新天皇・皇后両陛下

資料：朝日新聞（2019/05/01）

天皇陛下であった明仁さまは「上皇」に、美智子さまは「上皇后」となられました。

「憲法１条　天皇は日本国の象徴であり日本国民統合の象徴であってこの地位は主権の存する日本国民の総意に基づく」

上皇、上皇后両陛下、天皇在位３０年の足跡

昭和天皇の後を引き継がれた上皇明仁さま

は、天皇在位の 30 年間、上皇后美智子さまとご一緒に、実によく全国各地を歩かれました。平成年間は阪神淡路大震災、東日本大震災など日本各地に災害が多く、災害発生直後素早く現地を訪ねられ、被災者と膝を突き合わせて励ましておられました。

そして、沖縄をはじめ、広島、長崎など、日本はもとよりサイパンなどアジア各地にまで、先の戦争で亡くなられた人達への慰霊の旅を続けられました。上皇陛下の傍にはいつも美智子さまが寄り添う姿がありました。

幸いなことに日本では、平成年間に戦争はなく、平和が保たれた時代でした。先の戦争で亡くなられた方々への慰霊に重ねて、平和を願う象徴天皇の志、旅につづけて、日本国民として、誰もがいつでもわだかまりなく訪ねることのできる国立追悼空間を、皇居の森につながる“平成の森”の中に造れないものかと改めて思ったことでした。

写真４　地図にピンを指す上皇・上皇后 両陛下
思い出の数々

資料：宮内庁

３．時々刻々ー世界と日本の出来事

（平成 31 年２月～令和元年５月）

平成から令和へ、令和も１ヶ月が過ぎました。世界も日本も時々刻々、様々な事件が起きています。

・訃報

堺屋太一さん（83才）が２月８日逝去されました。時代を先取りする著作「団塊の世代」の発表や、通産官僚としての大阪万博のプロデュース、経済企画庁長官などを歴任する多彩な人でした。

私とは当時の国土庁主催の「首都機能移転に関する懇談会」（平成２年１月～４年３月）小グループ委員会（天野光三、石原舜介、堺屋太一、下河辺淳、高橋潤二郎、戸沼幸市、的場順三）で一緒でした。最近では新宿区の歌舞伎町ルネッサンス協議会で幾度も親しく議論しておりましたのに、突然の訃報に驚きました。ご冥福を祈ります。

ドナルド・キーンさん（96才）が２月24日逝去されました。つい最近、早稲田大学の講堂でドナルド・キーンの話「私と早稲田大学」を聞く機会があり、和やかな日本語での話しぶりに引き込まれたことを思い出します。日本のかたち、文化・文学を論じた「果てしなく美しい日本」を改めて読み直しております。

・米朝首脳会談

米トランプ大統領と北朝鮮金正恩委員長との２度目の会談が、ベトナム・ハノイ（２月27～28日）で行われました。「朝鮮戦争の終結宣言」が行われ、米朝の歩み寄りが一歩前進するのではないかと期待されましたが、結果は北朝鮮の核廃棄の第一歩として寧辺施設の廃棄提案に対して、米は北朝鮮のすべての核施設を廃棄すべしとして、用意された署名式を突如中止、会議は決裂、トランプ氏は早々に帰国してしまいました。

日本として朝鮮半島の全面的非核化は是非実現してほしいものですが、核大国アメリカ

が自国の核をそのままにしての対応には腑に落ちない点もあります。

北朝鮮の段階的核縮小を認めるべきではないか。韓国も事態が進展し、制裁緩和を唱えております。日本も拉致問題に合わせて日朝平壌宣言（2002.9.17、小泉純一郎総理・金正日委員長）をベースに新たな日朝会談をもち、事態の改善に取り組んでほしいものです。

写真５　トランプ・金会談

資料：読売新聞（2019/02/28）

・過激派によるテロ事件

ニュージーランド、白人による銃乱射事件

３月15日、ニュージーランド南島中部に位置する都市クライストチャーチでイスラム礼拝堂（モスク）に「白人危機」を煽る声明を出し、銃乱射、49人死亡、48人負傷。

スリランカ・爆発テロ

４月21日、ＩＳ、キリスト教教会とホテルを標的に爆発テロを仕掛け、死者290人（日本人も死亡）負傷者500人、一ヶ月後、スリランカにおいて、イスラム教徒を狙った暴動相次ぐという報道がなされています。

・スポーツ

アメリカ大リーグ（ＭＬＢ）

マリナーズのイチロー外野手（本名：鈴木一郎）東京ドームで引退声明（３月21日）

1991年オリックスにドラフト４位で入団、1994年から７年連続首位打者、2000年大リーグに移籍、年間最多安打262本（2004年）、日米通算安打4,367本。

細身でしなやかな体での守備と打撃で、日本の野手はアメリカでは通用しないとの説を覆しました。

大相撲

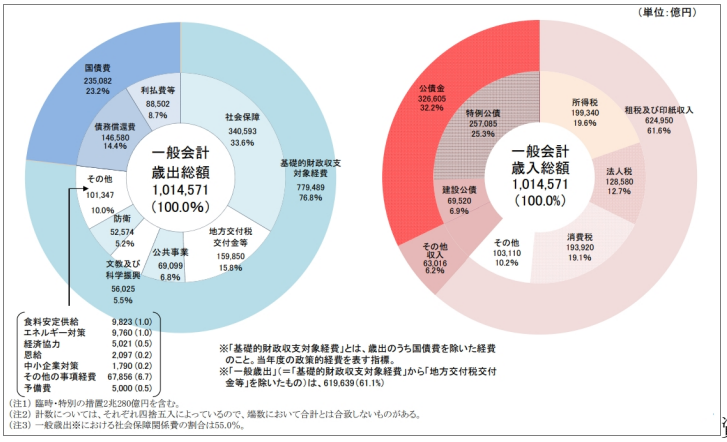
平成最後の大阪春場所（３月25日）白鵬（34才）15戦全勝で42度目の栄冠。柔らかい体でモンゴル出身の大横綱です。

・2019 年度国家予算、参院本会議で可決

初の 100 兆円台になりました。10 月の消費税 10%分も見込まれています。

図表１　平成３１年度一般会計予算の概要

（歳出）　（歳入）



資料：財務省

・東日本大震災から８年

３月 11 日、東日本大震災から８年になりました。福島の原発事故を含む大災害では 15,897 人が死亡、2,533 人が行方不明、そして現在の避難者は５万人を超えていると報じられております。原発の廃炉作業は今も続いており、見通しが立たない状態です。このような状況の中でようやく４月 10 日に福島県大熊町の避難解除（帰還困難区域は除外）がなされました。大川原地区には新しい役場も出来ました。三陸鉄道リアス線も３月 23 日に宮古～釜石間が開通しました。「三鉄は復興の象徴」です。また、釜石ではラグビーワールドカップが９月 25 日と 10 月 13 日に開催が決定されております。

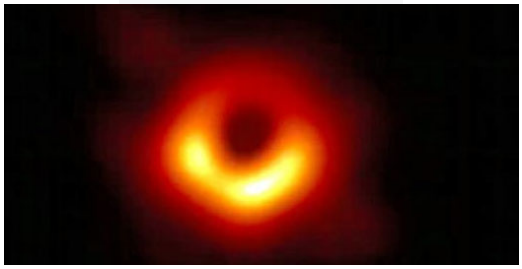
震災から８年、被災地の交通網はほぼ回復し、被災地のかさ上げされた大きな土地造成、土木的基盤整備は出来ましたが、ここに人々が戻るのかが問題です。また 100 万トンに及ぶ汚染水処理問題も残り、大災害から８年を経て震災復興の新しいイメージが求められている時期だと感じます。

・ブラックホールの撮影に成功

４月 10 日、国立天文台などの国際研究チームが世界で初めて、あらゆる物質を呑み込む宇宙の巨大な「ブラックホール」の撮影に成功しました。地球から 5,500 万光年先の、環状の光の輪の中のブラックホールの映像がメディアに大きく報じられました。宇宙科学の大きな成果に違いありません。と同時に広大な宇宙に浮かぶ「地球」とは一体何か、人類、人間はいかなる存在なのか。時々刻々、地球（世界）に起こる、絶えない不幸、争いの連続を、悲劇的にも喜劇的にも感じます。

写真６　史上初、ブラックホールの撮影に成功

国際プロジェクト（Event Horizon Telescope; EHT）で撮影したブラックホールの画像



資料：国立天文台

・フランス　パリ・ノートルダム大聖堂炎上

花の都パリのセーヌ川のシテ島に建つノートルダム大聖堂が燃え、尖塔が崩落して行く映像（４月 15 日夕方～16 日）には驚かされました。修復中の屋根に取り付けられた足場部分が火元とか。

ノートルダム大聖堂（1163 年着工、1345 年完成）は初期ゴシック建築の傑作として知られ、まさに世界遺産です。フランス大統領もこのパリの象徴再建に前向きとか。尖塔が復元された姿をぜひ見たいものです。

写真７　パリ・ノートルダム大聖堂の炎上

資料：朝日新聞（2019/04/17）

・沖縄復帰 47 年

米軍普天間飛行場移設計画に対して沖縄県民投票（２月25日）反対70%超。
沖縄日本復帰47年（５月15日）を迎えました。

・米中貿易紛争問題

昨年来、アメリカと中国との貿易摩擦、互

いに高い関税（10%から25%へ）をかけ合う応酬が、第１弾、第２弾、第３弾、そして第４弾へと続いております。特に問題となっているケースに、中国ＩＴ企業：華為技術（Huawei）の多くの高性能部品をアメリカから調達する際、アメリカからの許可が必要とする件があります。

中国は先端分野での技術を格段に高め、この分野でも強国を目指しております。中国が巨大な人口（14 億）を背景に、社会主義の市場経済を加速させれば、やがてＧＤＰでアメリカを抜き、10 年後には世界１位になるという予測も出されています。

図表２　米中の比較

	人口（万人）2015	面積（万㎢）	GDP（億＄）2017
アメリカ	32,775	963	193,906
中　　国	139,000	960	120,146

資料：日本統計年鑑

・英国のＥＵ離脱・ＥＵの未来

2016（平成28）年６月23日に、英国のＥＵ離脱の是非を問う国民投票が行われ、52%対48%の僅差で離脱支持派が勝利してから３年になります。メイ首相はＥＵとの合意無き離脱を避けるための模索を重ねておりましたが、事態は混乱したままであり、その責任を取って辞意を表明（5月24日）しました。この間の様子を見ていると、保守党対労働党の二大政党による英国流民主主義のかたちが揺らいでいる様子です。

産業基盤が工業から情報産業へと急展開している時代、都市部（大都市）と地方において考え方の差が広がり、ここに移民問題が重なって民意の受け皿が揺らいでいる様子です。

ＥＵ（英国を含んで 28 ヶ国、人口：５億人超）自体、加盟の国々にポピュリズムの台頭があり、多文化主義の推進を掲げるＥＵの理想が揺らいでいます。欧州議会ではＥＵ懐疑派が勢力を増加させつつあります。グローバルとローカルの交差する時代、“国家” の在り方が改めて問われる事態になりました。

・トランプ大統領夫妻　国賓として来日

５月 25 日、米トランプ大統領がメラニア夫人と令和初の国賓として来日し、天皇、皇后両陛下と会見し、宮中において日米友好、親善の宴が行われました。安倍総理が同伴し、ゴルフ、相撲、炉端焼きと手厚いもてなしの様子が連日報道されておりました。

東京・両国国技館での夏場所千秋楽（５月 26 日）に、厳戒態勢のなか、トランプ米大統領は升席に用意された特別席で観戦、優勝力士の平幕、朝乃山に米大統領杯を自ら渡しておりました。

写真８　トランプ大統領
大相撲五月場所で賜杯を渡す

資料：朝日新聞（2019/05/27）

ただ貿易関税問題など日米の懸案は先送りされたままです。またトランプ大統領は日本が大量の兵器、高価な最新鋭ステルス戦闘機の購入を歓迎するとしたことなど、2014 年の国賓オバマ前大統領の広島訪問などと較べて何か釈然としない点が残ります。

・川崎、登戸通学バス停死傷事件

令和が始まって一ヶ月も経たない５月28日朝のちょうど通勤・通学の時間帯に、安全であるべき児童の通学路で、無差別な通り魔死傷事件が起きました。岩崎隆一容疑者（51才）が２本の包丁を振り上げて小学生らを襲い、僅かな時間に20人を死傷させ、しかも自殺する事件が起こりました。小学校６年生の女児と外務省職員でミャンマー語通訳官の小山智央さんが亡くなりました。現場には花や飲み物が今も供えられております。やりきれない事件です。

時々刻々、楽観できない令和の幕開けです。

（2019/05/31）